

実践の方法としては、「私の希望」という題で作文を書かせ、個々の生徒の将来への志向性の状況を把握する。次に、将来へ向けての自分としての努力点、改善点を「学級活動」の授業の実践の中から気づかせ、「将来への向上」に向けての意識を高める。

その他、個別教育相談や教育活動の様々な場面で、「自己理解」「自尊」の指導援助と関連を持たせながら、「将来への向上」の意欲を高めていく。

(3) 授業の実践

<学級活動> 将来への希望

① 指導援助のねらい

ア 本時のねらい

職業についての関心を高め、自分に適した進路を追求しようとする態度を養う。

イ 本研究における指導援助のねらい

○ 自己理解をもとに、自分への誇りと自信を高め、将来への見通しを持たせる。

○ 自分自身にとっての将来への目的意識を持た

せ、希望する職業について考えさせる。

② 指導の仮説

上記のねらいを達成するために、次のような指導援助をしていけば、将来への志向性を持って生活しようとする意欲が高まるであろう。

ア 作文「私の希望」の発表や全員の希望する職業アンケート集計表の提示により、級友の希望も知りながら、職業に対する関心を持たせる。

イ 職業の適性、資格などを理解した上で、希望の実現に向かって、性格、行動面での努力点、改善点について気づかせる。更に、級友の発表から気づいた点を学習プリントに書き加え、努力し改善しようとする意欲を高める。

ウ 自分の性格、行動面の特徴から、努力点、改善点に気づくことができないでいる生徒に対しては、良いところを認め、励ましながら個別に助言し、気づかせる。

③ 主な指導援助

ア 雰囲気と和らげ、前時の考えを振り返る

進路の話となると、どうしても重苦しい雰囲気

段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点	集団に対する指導援助	個人に対する指導援助	検証の観点
目次	2. 「わたしの将来」「わたしの希望」を発表する。	5	○ 事前に課題として「わたしの将来」等の題材で作文を書かせ進路について関心を持たせておく。 生きがいのある人生を目指し努力することが、重要であることを話し、自分がいま考えている職業について作文を書かせおく。	○ 他人の考えを聴くことは大切であるので真前に聞くようにさせる。なお、発表の前後は必ず賞賛の拍手を行なうよう指導しておく。(自尊)	○ 希望が現実とかけはなれている生徒、価値観を持っていない生徒、自分の将来について考えようとする生徒、親との意見の相違などで悩んでいる生徒については個別面談等を通し、自分にあった希望職業が見つけれられるよう、励まし、助言の言葉をかけ援助する。(自尊)	○ きちんと将来の職業について作文をまとめることができた。(作文)
開閉	3. 学級全体の「将来の職業に関する」アンケート集計の発表をする ・級友の希望を知り、進路についての関心を高める。	9	○ 事前にアンケート(別紙)をとじ、係の生徒にまともな紙を、発表させる。 ・級友の希望を知り、進路についての関心を高めることができた。	○ 友人の希望職業を知ることによって自分との違いや新たな感動を持たせるようにする。	○ 発表に関しては、事前調査で特に、将来の向上の意識の低かった2男を意識的に指名し、励ますようにする。 ○ 学級の中には、将来のことを意識して努力している生徒がいることを、比較的関心の低い生徒に気づかせたい。 T「2男君、君はこのアンケートの結果を見て、こんなに将来のことを考えている人がいることをどう思う。」	○ 進路についての関心を高めることができたか。(観察・発表)

図IV-22 指導過程(一部抜粋)

になりがちなので、気分をほぐし、考えを発表しやすくするために短時間で「じゃんけん遊び」を行った。その後、前時に学習した自分の希望する職業に必要な適性・資格などについて各自の学習プリントで振り返り、本時のねらいを確認した。

イ 職業についての関心を高める

各自の希望する職業に対する関心を高めるために、作文「私の希望」を2名に発表させた。

○ F子「家業の魚屋を継ぎたい」

○ 指名されたF子が、発表を終えると生徒たちは、F子が魚屋を継ぐことに感動したのか、大きな拍手をした。生徒に感想を聞くと父親が自営業を営んでいるC男が、「僕は、長男で家を継がなくてはなりません、コンピュータ関係の仕事に就きたいと思っています。F子さんはお兄さんがいるのに、後を継ぎたいなんてすごいと思います。」と意見を述べた。

○ N男「ツアーコンダクター(旅行案内者)に